

春風秋霜 6月号

令和2年6月1日
島田市教育委員会より
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 学校再開に向けて

私は、3月2日から始まった休校が、新年度の数日を除き5月20日まで続くとは予想していませんでした。休校延長に伴う子供たちへの支援及び教育課程や授業の再編など、教職員の皆さんの負担は大きかったと思います。

家庭への連絡や臨時登校日の対応、そして授業再開への準備と、チーム学校として対応していただいたことに感謝します。ありがとうございました。

2 新しい生活様式によるコロナ対策について

多くの国民の外出自粛により、新型コロナウイルス感染拡大はピークを越し、国と県はこれまでの自粛要請を緩和しました。しかし、感染の心配がなくなったわけではなく、今後も感染防止を継続しなくてはなりません。

国からは、「新しい生活様式」の実践例が出されています。そのいくつかを紹介します。

(1) 日常生活

- ・ 人との間隔をできるだけ2m（最低1m）空ける。
- ・ 会話する際は、可能な限り正面を避ける。
- ・ 家に帰ったらまず手や顔を洗い、できるだけすぐに着替える。
- ・ 感染が流行している地域への移動は控える。
- ・ 発症したときのため、誰とどこであったかをメモにする。
- ・ 食事は対面ではなく横並びで座り、会話は控えめにする。

(2) 買い物

- ・ サンプルなどの展示品への接触は控えめにする。
- ・ レジでは前後にスペースをとる。

(3) 娯楽・スポーツなど

- ・ 狭い部屋での長居を避ける。
- ・ 多人数での会食はさける。（他人のグラス等は使わない。回し飲みは避ける）
- ・ 料理は個々にし、大皿は避ける。

企業活動等が再開されたからといって、生活が新型コロナウイルス蔓延前に戻るということではありません。感染防止をしながら生活をするということだという意識を忘れないことが大切です。他国の例を挙げるまでもなく、感染の第2波や第3波がくるリスクはまだ残っています。

3 学校再開に当たって

長い休校が終わり、学校生活が始まりました。学校再開日の21日には新型コロナウイルス対応として、手洗いの徹底や三密の防止などを全校で指導したり、人数が多い学級を広い特別教室に移動したりと、各学校ができる工夫を行っていました。

今後は、長期休校が開けた後に起こる問題にも対応しなくてはなりません。生活リズムの立て直しや課題への取り組みが十分にできていない子供は、登校渋りや不登校につながる心配があります。複数の目で確認し、情報の共有をお願いします。また、家庭との密な連絡も欠かせません。特殊な状態での学校再開という意識が大切だと思います。

更に、新年度が始まってから新担任として引き継いだ事項の再確認も必要です。様々な引継ぎも約2カ月が経っています。中には記憶が薄れている情報もあるはずで、家庭環境や友達関係などにおいて、知らずに発した一言が大きなトラブルになることもあります。十分な確認をお願いします。

中国では体育の持久走中に3人の学生が死亡したと報道されています。N95という高性能マスクを着用していたため、酸素不足が原因だそうです。マスク着用での激しい運動の危険性は、酸素不足だけでなく熱中症にもあります。

報道によると、マスクを着用していると喉の渇きを感じにくくなるそうです。喉が渇かなくても、体内の水分不足は進行します。計画的な水分補給がこれからの季節では必要になります。水筒の持参を呼びかけ、熱中症対策にも留意願います。

4 家庭菜園の楽しさ

我が家では園芸教室でいただいたミニトマト・ピーマン・茄子の苗をそれぞれ3本ずつ栽培しています。その中のピーマンがこれまで経験したことのない特大（15cm）に育ちました。家族もこの大きさに驚いていました。

今年は、外出自粛により家庭菜園が人気で、ホームセンターが賑わっていると聞きました。自分で栽培した野菜を食べるのは楽しいものです。コロナウイルスの流行が新たな楽しさとの出会いになっているのかもしれませんが、家族で楽しめる趣味が見つかることを願っています。

肘かけ椅子

秋田 美八子 教育委員

新型コロナウイルスの影響で、私たちの生活は大きく変わりました。あたり前にできていたものができなくなり、あたり前に行けていたところに行けなくなり、あたり前に手に入っていたものが手に入らなくなり、大人も子供もみんながそれぞれの立場で不安や不自由さを強く感じながらの生活が続きました。

そんな日々の中、コンビニエンスストアのアルバイトから帰ってきた息子が、「今日、お客さんに『君のあいさつは気持ちがいいね。元気がでるよ。』って言われた。なんかうれしくなったよ。」と、にこにこしながら話をしてくれました。その様子を目にし、ストレスを感じる生活が続く中、そんなふうに息子に声をかけてくれたお客さんに感謝の気持ちでいっぱいになりました。このお客さんのたった一言で、息子も私もとても温かい気持ちになることができたのです。改めてことばの持つ力の大きさを実感しました。

社会教育課で行っている親学講座では、「子供は大人の姿を見て学びます。」と保護者の皆さんにお伝えしています。まだしばらくは気の抜けない日々が続くと思いますが、こんな時だからこそ、笑顔で前向きなことばや温かいことばを使う大人の姿を子供たちにたくさん見せていけたらと思っています。